

このまちの100年

「沼津」

沼津は陸路と海路の交わる要衝で、江戸期には東海道の宿場町・沼津宿としてにぎわいました。明治期には鉄道も開通し、沼津御用邸など海浜保養地としても発展。漁業も盛んで、魚市場周辺は観光地としてもにぎわいます。



大正期

大正2年の沼津大火からの復興中の追手門(現在の大手門)交差点付近を行く駿豆鉄道軌道線。沼津駅から写真右方向へ曲がり三島方面へ向かっていた



大正15年頃

沼津駅方面から見た追手門交差点。復興はさらに進んで見えるが、大正15年、二度目の沼津大火で一帯は再び焼失した



大正15年頃

沼津駅も沼津大火で二度焼失した



昭和10年頃

富士山を背景に、工場の煙突が目立つ沼津市内の風景。大正12年に沼津市は市制を施行した



昭和30年頃

沼津湾に注ぐ狩野川河口左岸、我入道から見た霊峰、富士山



昭和30年代

昭和29年、沼津駅の南に誕生したアーケード名店街

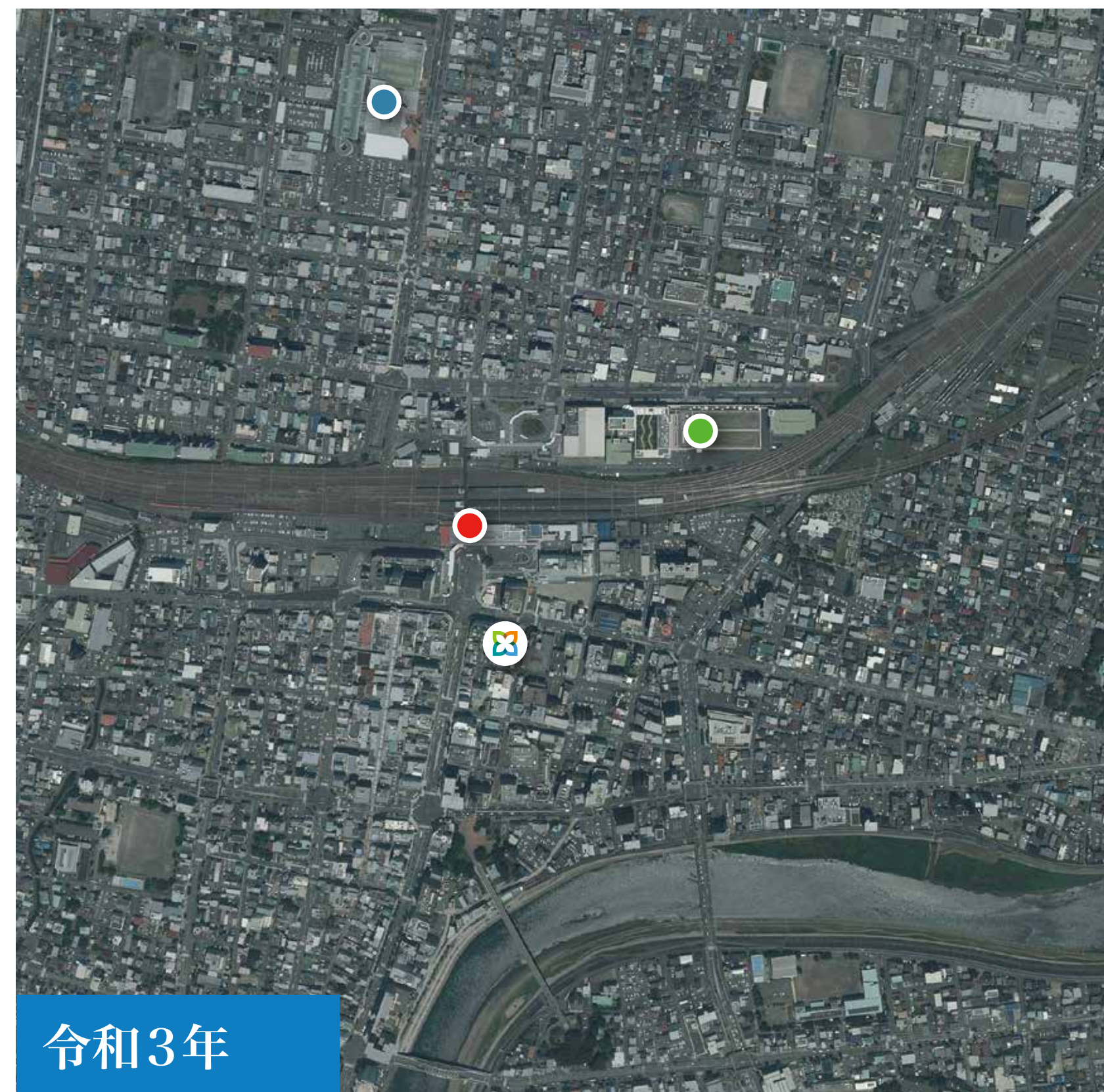
上空からみた沼津エリア



昭和16年



昭和54年



令和3年

● : 石橋製糸 沼津工場 / イシバシプラザ (～令和3年)
 ● : 国鉄 沼津機関区 / ふじのくに千本松フォーラム
 ● : 沼津駅

沼津 : 現在地